



特許公報

2000円

特許

許願

昭和50年3月25日

特許庁長官

1. 発明の名称

ガス栓の発音装置

2. 発明者

特許出願人と同じ

3. 特許出願人

住所 郵便番号 491

愛知県一宮市古見町36番地

氏名 鶴 津 光

4.添付書類の目録

(1)明細書 1通

(2)願書副本 1通

(3)同面 1通

方式
審査
黒合併

50-037255

明細書

1. 発明の名称

ガス栓の発音装置

2. 特許請求の範囲

ガス栓把手2に突片4を固定し、先端部に遮蔽板6を設けると共に、曲折して支持片5に遮蔽板6'を併設する。遮蔽板6'に挟むように磁石7とスイッチ8を相対に設け、把手2の回動により遮蔽板6は磁軸より抜け出し、スイッチ8が導通になり発音機は作動し、ガス栓全開になれば遮蔽板6'は磁軸を遮断して発音機が休止する。又把手2を復帰すれば遮蔽板6'は磁軸を抜け出し発音し、1/4周すれば遮蔽板6'で磁軸を切つて発音を休止するようにしたことを特徴とするガス栓の発音装置。

3. 発明の詳細な説明

この発明はガス管引込みの元栓に取り付ける発音装置に関するものである。

従来では元栓の開閉において、人間がガス点火する時に聞き、燃焼後ガス栓を完全に閉口するにあつた。往々にして完全な閉口及び完全な閉口を致さない場合には大事故が発生する事もある。このような事の無いように安全を目的とした装置である。

この装置は上記の欠点を除去するために開発されたもので、特に完全に閉口した時点、すなはち

⑯ 日本国特許庁

公開特許公報

⑪特開昭 51-111925

⑬公開日 昭51. (1976) 10. 2

⑭特願昭 50-037255

⑮出願日 昭50. (1975) 3. 27

審査請求 有 (全2頁)

府内整理番号

6864 31

⑯日本分類

66 A9

⑮Int.CI?

F16K 37/00

コツクの把手のストップする位置になる個所で発音が停止する。又コツクの把手を開口に廻せば発音し、完全に開口すれば発音が停止する。このような機構でガス栓の半開、及び半閉の危険な状態を発音機によつて人に知らせるようにしたものである。

次にこれを図示の実施例について詳細に説明する。

第1図においては家屋内に引込まれたガス管のコツク1. 1の上部に把手2は1/4周すると開口し、1/4戻すと閉口する機構である。把手2の上部に挟み保持するキヤップ3を設け、これより突片4が固定し先端部に磁力の遮蔽板6を上下に設けると共に、これより曲折して支持片5が延長され、その先端部に遮蔽板6'を併設する。磁石7とスイッチ8を遮蔽板6'を挟むように相対し非磁性の保持材9にて固定し、遮蔽板6'が遊動するよう規定するスイッチ8から発音機10に結線して、スイッチ8が導通になれば発音するようにしておく。したがつて把手2を少し回転すると遮蔽板6'は移動して磁石7によりスイッチ8が導通になり発音して、1/4周すると遮蔽板6'は磁石7の磁軸を遮断してスイッチ8を不導通になり、発音機10を停止させるとガスは流出中である。

又把手2を復帰する場合には少し回転すると、磁軸を遮蔽板6'は抜け出してスイッチ8が導通にな

り発音しながら 1/4 周すると磁軸を遮蔽板 6 で切るのでガスは完全に止めた事になり発音も停止する。

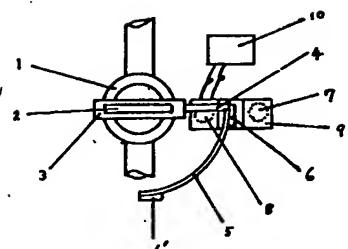
以上述べたように、この発明によれば、完全にコツクを締めなければ休止しないので、発音中は非常に危険な状態である事が容易に判別できると共に、遮蔽板 6'を取り除く事により、コツク開口中は発音を継続し、コツクを締めた時のみ発音を休止させる事も合せ備える利点があり、この安全的効果は誠に大きいものである。

4: 図面の簡単な説明

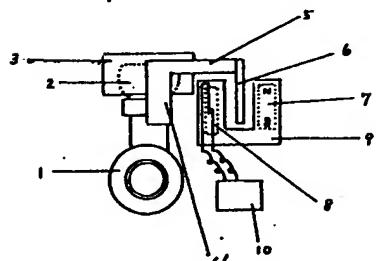
第1図はこの発明実施例を示す正面図、第2図は側面図である。

- | | |
|---------|--------|
| 1 はコツク | 2 は把手 |
| 3 はキヤツブ | 4 は突片 |
| 5 は支持片 | 6 は遮蔽板 |
| 6'は遮蔽板 | 7 は磁石 |
| 8 はスイッチ | 9 は保持材 |
| 10 は発音機 | |

第1図



第2図



特許出願人の氏名

鷲 津 光 徒